



平成23年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月14日

上場取引所 東

上場会社名 E・Jホールディングス株式会社
コード番号 2153 URL <http://www.ej-hds.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小谷 裕司

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部副本部長 (氏名) 浜野 正則

TEL 086(252)7520

四半期報告書提出予定日 平成22年10月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年5月期第1四半期の連結業績(平成22年6月1日～平成22年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年5月期第1四半期	1,171	8.8	△1,158	—	△1,130	—	△1,221	—
22年5月期第1四半期	1,077	△33.0	△1,187	—	△1,146	—	△1,585	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年5月期第1四半期	△4,354.50	—
22年5月期第1四半期	△6,022.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年5月期第1四半期	17,505	9,653	54.7	34,158.30
22年5月期	16,944	10,876	63.7	41,018.46

(参考) 自己資本 23年5月期第1四半期 9,581百万円 22年5月期 10,800百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年5月期	—	0.00	—	500.00	500.00
23年5月期	—	—	—	—	—
23年5月期(予想)	—	0.00	—	400.00	400.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年5月期の連結業績予想(平成22年6月1日～平成23年5月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	18,800	13.3	350	4.5	430	△11.1	180	—	641.72

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

当連結グループの売上高は主要顧客である中央省庁および地方自治体への納期が年度末に集中することから第4四半期連結会計期間に偏重しており、第2四半期連結累計期間の業績予想が極めて困難な状況にあります。したがって、第2四半期連結累計期間の業績予想を公表しておりません。

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 有
新規 1社（社名 株式会社近代設計）、除外 1社（社名)

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年5月期1Q	363,053株	22年5月期	363,053株
② 期末自己株式数	23年5月期1Q	82,559株	22年5月期	99,730株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年5月期1Q	280,496株	22年5月期1Q	263,319株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
4. 補足情報	9
生産、受注及び販売の状況	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における経営環境は、ギリシャ問題に端を発した欧州財政、金融不安の強まりから世界景気の先行き懸念が広がる中、国内政治の迷走、雇用不安など先行き不透明な状況で推移しました。

建設コンサルタント業界においても、公共事業投資の縮減傾向が継続する中、受注競争の激化などの影響を受け、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中、各事業の強化・拡充を目的として平成22年6月1日に株式交換により道路・都市関係構造物を専門とする株式会社近代設計が当連結グループに加わりました。

そして、「E・Jグループ新中期経営計画」の達成を目指し、技術提案型の営業活動及び海外事業活動を積極的に推進し、受注高の確保、顧客評価の向上、営業基盤の強化に努め、5つの重点分野(環境・エネルギー分野、自然災害リスク軽減分野、都市・地域再生分野、インフラ・マネジメント分野、情報・通信分野)による技術力の差別化並びにプロポーザル型業務の特定率向上など、付加価値型業務の受注拡大を図ってまいりました。

当連結グループのセグメントは、総合建設コンサルタント事業のみであります。

当事業の特徴としまして、受注の大半が官公需という特性により、通常の営業の形態として、納期が年度末に集中するため売上高が第4四半期連結会計期間に偏重する傾向にあります。

当第1四半期連結累計期間の業績は、受注高48億20百万円(前年同期比107.1%)、売上高11億71百万円(同 108.8%)となりました。一方、損益面においては、固定費や販売費及び一般管理費については月々ほぼ均等に発生することから、営業損失11億58百万円(前年同期は営業損失11億87百万円)、経常損失11億30百万円(同 経常損失11億46百万円)、四半期純損失12億21百万円(同 四半期純損失15億85百万円)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ5億60百万円増加し、175億5百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べ8億45百万円減少し、86億93百万円となりました。これは主に、現金及び預金が25億32百万円減少した一方で、たな卸資産が15億86百万円増加したことによるものであります。なお、当連結グループの業務の特性として顧客からの入金第4四半期連結会計期間に偏る傾向にあります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ14億5百万円増加し、88億11百万円となりました。これは主に、株式会社近代設計が新たに連結子会社になったこと等により、のれんが7億46百万円、投資不動産が3億52百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べ17億83百万円増加し78億51百万円となりました。これは主に、借入金18億28百万円増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べ12億22百万円減少し、96億53百万円となりました。これは主に、四半期純損益が12億21百万円の損失計上となったことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当連結グループは、総合建設コンサルタント事業を主な事業内容としており、主要顧客である中央省庁および地方自治体への納期が年度末に集中することから、売上高が第4四半期連結会計期間に偏重する傾向があり、第2四半期連結累計期間の業績予想が極めて困難な状況にあります。したがって、当連結グループの受注・売上高の管理は通期ベースを基本としており、第2四半期連結累計期間の業績予想を公表しておりません。

通期の業績予想については、平成22年7月14日に公表しました業績予想数値に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

平成22年6月1日付の株式交換により株式会社近代設計の株式の過半数を取得したため、当第1四半期連結会計期間より、連結の範囲に含めております。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

②固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

③繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境、一時差異の発生状況等に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①資産除去債務に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(平成20年3月31日 企業会計基準委員会 企業会計基準第18号)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(平成20年3月31日 企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第21号)を適用しております。

これにより、税金等調整前四半期純損失が2百万円増加しております。

②企業結合に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(平成20年12月26日 企業会計基準委員会 企業会計基準第21号)、「連結財務諸表に関する会計基準」(平成20年12月26日 企業会計基準委員会 企業会計基準第22号)、「「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」(平成20年12月26日 企業会計基準委員会 企業会計基準第23号)、「事業分離等に関する会計基準」(平成20年12月26日 企業会計基準委員会 企業会計基準第7号)、「持分法に関する会計基準」(平成20年12月26日 公表分 企業会計基準委員会 企業会計基準第16号)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(平成20年12月26日 企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第10号)を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,637	7,170
受取手形及び売掛金	759	850
有価証券	174	174
たな卸資産	2,642	1,055
繰延税金資産	2	6
その他	481	286
貸倒引当金	△4	△5
流動資産合計	8,693	9,538
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,516	1,512
土地	2,365	2,312
その他(純額)	196	171
有形固定資産合計	4,078	3,995
無形固定資産		
のれん	889	143
その他	334	317
無形固定資産合計	1,224	460
投資その他の資産		
投資有価証券	1,339	1,357
固定化営業債権	26	39
投資不動産(純額)	850	497
繰延税金資産	12	12
その他	1,334	1,080
貸倒引当金	△55	△39
投資その他の資産合計	3,508	2,949
固定資産合計	8,811	7,405
資産合計	17,505	16,944

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年5月31日)
負債の部		
流動負債		
業務未払金	169	343
短期借入金	700	—
1年内返済予定の長期借入金	812	333
未払法人税等	38	130
繰延税金負債	0	0
未成業務受入金	1,395	1,286
賞与引当金	162	—
受注損失引当金	49	38
その他	610	1,049
流動負債合計	3,940	3,183
固定負債		
長期借入金	1,756	1,107
リース債務	20	—
繰延税金負債	145	102
退職給付引当金	1,623	1,283
負ののれん	59	71
長期未払金	253	278
長期預り保証金	51	41
固定負債合計	3,910	2,884
負債合計	7,851	6,068
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000	2,000
資本剰余金	5,379	6,100
利益剰余金	6,910	8,263
自己株式	△4,202	△5,099
株主資本合計	10,087	11,264
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△506	△464
評価・換算差額等合計	△506	△464
少数株主持分	72	76
純資産合計	9,653	10,876
負債純資産合計	17,505	16,944

(2) 四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)
売上高	1,077	1,171
売上原価	1,046	1,058
売上総利益	30	113
販売費及び一般管理費	1,217	1,271
営業損失(△)	△1,187	△1,158
営業外収益		
受取利息	16	16
受取配当金	6	5
負ののれん償却額	15	11
不動産賃貸料	9	16
その他	10	8
営業外収益合計	58	59
営業外費用		
支払利息	8	17
不動産賃貸費用	6	9
その他	1	3
営業外費用合計	17	31
経常損失(△)	△1,146	△1,130
特別損失		
固定資産除却損	2	1
投資有価証券売却損	—	1
投資有価証券評価損	0	17
関係会社出資金評価損	10	—
事務所移転費用	—	8
経営統合関連費用	46	—
退職給付制度改定損	342	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	2
特別損失合計	403	32
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,549	△1,162
法人税、住民税及び事業税	26	50
法人税等調整額	8	10
法人税等合計	35	61
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△1,224
少数株主利益又は少数株主損失(△)	0	△2
四半期純損失(△)	△1,585	△1,221

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,549	△1,162
減価償却費	72	71
退職給付制度改定損	342	—
のれん償却額	17	42
負ののれん償却額	△15	△11
貸倒引当金の増減額(△は減少)	16	△9
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△9	10
賞与引当金の増減額(△は減少)	221	162
退職給付引当金の増減額(△は減少)	30	34
受取利息及び受取配当金	△22	△22
支払利息	8	17
投資有価証券評価損益(△は益)	0	17
関係会社出資金評価損益(△は益)	10	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	1
売上債権の増減額(△は増加)	99	223
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,209	△1,524
保険積立金の増減額(△は増加)	85	—
未成業務受入金の増減額(△は減少)	△111	23
仕入債務の増減額(△は減少)	△436	△489
未払消費税等の増減額(△は減少)	△124	△280
その他	△341	△468
小計	△2,914	△3,364
利息及び配当金の受取額	21	23
利息の支払額	△9	△15
法人税等の支払額	△135	△145
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,037	△3,502
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△120	△1
定期預金の払戻による収入	100	491
有形固定資産の取得による支出	△35	△18
無形固定資産の取得による支出	△74	△11
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	308
その他	△1	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△131	773
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,000	500
長期借入金の返済による支出	△89	△151
配当金の支払額	△197	△131
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,287	216
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,457	△2,512
現金及び現金同等物の期首残高	6,532	5,974
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,075	3,461

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

(単位：百万円)

業務別	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	(参考) 前連結会計年度 (自平成21年6月1日 至平成22年5月31日)
建設コンサルタント業務	1,879	2,589	13,275
調査業務	404	454	2,926
合計	2,284	3,043	16,202

(注) 上記の金額は販売価格に生産進捗率を乗じて算出しており、消費税等は含まれておりません。

② 受注状況

(単位：百万円)

業務別	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)		(参考) 前連結会計年度 (自平成21年6月1日 至平成22年5月31日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
建設コンサルタント業務	3,738	8,437	4,124	9,240	13,654	5,496
調査業務	760	1,541	696	1,440	3,013	990
合計	4,499	9,979	4,820	10,680	16,668	6,487

(注) 1 当連結会計年度から新たに連結子会社となった株式会社近代設計の連結開始時受注残高は、544百万円であります。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

(単位：百万円)

業務別	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	(参考) 前連結会計年度 (自平成21年6月1日 至平成22年5月31日)
建設コンサルタント業務	902	925	13,586
調査業務	175	246	3,012
合計	1,077	1,171	16,599

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。